

生野内地区の紹介



生野内区は数年前に踏切前の府道などを中心に大幅な拡幅工事を行いました。

沿革

生野内（いくのうち）地区は、網野町中心より府道を峰山に向かった峰山町石丸地区と隣接する地区です。地区内を二分するようにKTR線が縦断しています。集落群は昔より現在の位置にあり、特に大きな変化はありませんが、現在のKTR線踏切の奥の谷に民家は多くありました。過去は30戸余りに過ぎず、分家をされた方たちが、主に府道沿いに出て来られ、現在は40戸余りの戸数に増えています。



過去における「中郡」「竹野郡」の群境がありますが、ご承知のように、となりの峰山町石丸地区と家屋が隣接しており、峰山町の領域に網野町の住民が家屋を構えている部分もあると言います。現在はわかりやすく踏切が境だと考えていただ

いたら結構かと思います。

地域の暮らし

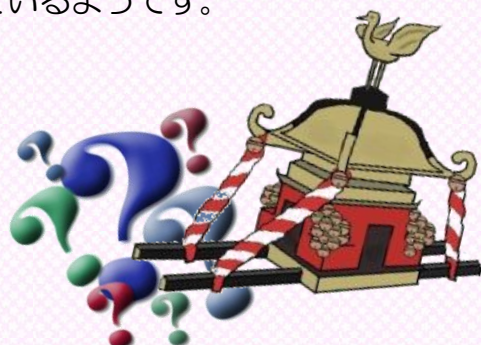
過去においては稲作農業とともに林業が盛んで、地区内で植林が盛んに行われていた時代がありました。ところが、谷の奥地などに場所が多く、水分が多い地質のために、いつの頃からか消滅してしまいました。一方で、

稲作農業には力を注ぐリーダーが村にいたと言います。60年程前に近隣地区では初めて田植え機を導入されて、機械化農業の走りの地区であったと、ある農家の方が自負されています。

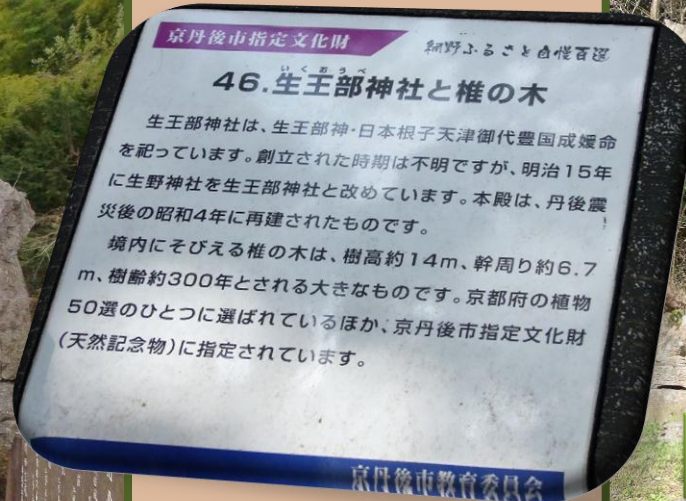
祭事

祭りにおいては、この地区も氏神祭り（生主部神社）が毎年10月第2日曜に行われております。昔（明治の頃）においては「三番叟」などの能楽の出し物がありました。

さらに次のような伝え話があります。明治以前には、集落奥の権現山の神社の神輿を担いだとのことです。この場所は浅茂川海岸が見渡せる場所にあり、担ぎ手の若者がこの場所で大きな掛け声をあげて、神輿を担ぎ下し始めると、浅茂川の水が必ず荒れて漁師が漁に出られず、この地区に文句をつけたと云います。それ以来その神輿は山の中腹に埋めてしまったと伝えられています。今でもその埋めた場所がわかっているとのことです。ただこの話は、若者が神輿を山の下まで担ぐのが大変だから、嫌気がさして、神輿を処分したことに対する言い訳ではないかとも云われているようです。



府道より南西方の谷間にある集落風景



生王部神社の参道（石段）



神殿に向かおうとするとこの椎の巨木が迫ります



境内に上がると正面に巨木が目に入ります

★左上の写真は踏切を渡った南西側にある集落の遠景です、この道路の奥に家々が立ち並んでいます。また、手前に見える石碑の右の山方面には、国営農地が造成されています。★そして、写真中央の集会所横から石段を少し上がると、写真（3枚）にある生王部神社がご覧になります。ここには天然記念物に指定されている（解説は写真）椎の巨木が目の前に迫ります。ぜひ一度見に来てやってください。